

No. 926

両陛下親善の旅 —第二報—

ヨーロッパの深い秋には、めずらしくやわらかい日ざしにつつまれたフランスのパリ。

9月27日、東京を出発されてから、元気にヨーロッパ親善の旅を続けられている天皇・皇后両陛下は、10月2日思い出深いパリにご到着。

両陛下は、エリゼ宮殿でボンビドー大統領主催の昼食会に臨まれました。週末のご休養と見物でフランスをおとづれられた両陛下は、3日、ルーブル美術館でミロのビーナスなど世界の芸術をごらんになった後、パリ郊外のフォンテンブローの森へドライブを楽しまれました。

両陛下は12世紀に狩獵館として建てられた優雅なフォンテンブロー城、ナポレオンがエルバ島に流される時、近衛兵と別れを告げたという正面階段などご見学になられ、城の内庭の「鯉の池」で白鳥や鯉に餌を投げられるなど静かなひとときを過されました。

パリで三日間のご休養された両陛下は、10月5日朝、第二の公式訪問国イギリスにご到着。

ロンドン・ピカドニア駅でエリザベス女王らの歓迎を受けられ、6頭立ての馬車で、人がきでうずまつた沿道の中、バッキンガム宮殿にむけパレード。

両陛下は何度も手をあげて人々の歓迎にこたえられました。その後、ウエストミンスター寺院を訪れられた天皇陛下は無名戦士の墓へ供花。

翌6日、スロップハリソン園長に迎えられた王立植物園で両陛下は、高さ5mほどの杉の木を植樹されました。

翌7日王立動物園をおとづれられた両陛下は、めずらしいジャイアント・パンダの歓迎に目を細められ、心から旅を楽しんでいました。

沖縄も初参加 —一日内閣—

10月6日、フェニックスが咲き誇る南国宮崎市で年に一度の「国政に関する公聴会」(一日内閣)が開かれた。九州での一日内閣は39年の熊本市に次いで2度目だが、今回は特に沖縄代表が一般発言者に初めて参加し、沖縄が直面している現状を説明、政府の早急な「沖縄県作り」を訴えた。その他、大分、宮崎、鹿児島の代表が環境保全・教育改革・過疎対策・農政・漁業などについて意見を発表した。

これに対し、政府側の答弁は型通り、しかも、昨年の『公害』というような一貫したテーマがなかったこともあって、今ひとつ盛りあがりに欠けた。37年にスタートして今年で10年目、「言いっぱなし、聞きっぱなし」と批判される一日内閣、『地方のナマの声を国政に反映しよう』という設立の意義を再考し、もう一工夫ほしいものである。